

補助事業プレゼンテーション資料

社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団

補助事業名

～法人格を有さない団体に対して行う支援補助事業～

①被災者支援のためのキャンプ事業

全国難聴児を持つ親の会

②障害児の親のための指導誌の発行事業

全国病弱虚弱教育学校 P T A 連合会

社会福祉法人全国心身障害児福祉財団 常務理事 高山 康信

事務局主幹 町野 忠史

全国難聴児を持つ親の会 会長 高屋敷 光男

全国病弱虚弱教育学校 P T A 連合会 事務局長 坂田 紀行

社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団プレゼンテーション

父母団体名	全 国 難 聴 児 を 持 つ 親 の 会
団体概要	聴覚に障害を持つ子どもたちにより良い教育環境と生活環境をもたらすために、その親たちが情報を交換し、互いに助け合い、また教育関係者や行政にはたらきかけることを目的にしている団体です。

補助事業名	被災者支援のためのキャンプ事業
平成24年度補助事業 実施内容	大震災の影響のない東京を会場に被災地親子を対象に行う。大震災という大変な経験をしストレスを抱えながらも頑張っている親子に対して東京という被災地とは別の環境で楽しい活動を行う。また難聴児教育に関わる専門家による指導によって集団生活の経験や社会性の向上を図る。保護者は今回の経験を互いに話し合う中で心のケアを図る。
実施した結果 成果・効果について	家にこもりがちであまり外遊びをしないとか、親のそばを離れたがらないという子どもがまだまだいるようです。そんな子が親と離れて、スタッフの難聴学生と楽しそうにふれあっていました。また親自身も手のかかる子どもから少し解放されて元気を取り戻したように思います。震災そして復興という状況の中での自分たちの経験を話し合い、聞く中で新たな力をもらったと言って帰って行ったのが印象的でした。
次年度以降への改善点	平成24年から3年計画で行ってきました。これまでは被災者を対象に東京で開催していましたが、最終年となる26年は対象者も全国に広げ、被災地復興を自分の目で確かめてもらう。そして、被災地・被災者から学ぶような企画を考えています。

Z S Z

べる

No.163

昭和四十九年十月五日第三種郵便物認可
平成二十五年十月十八日改訂 Z S Z

面数一八七五号（毎月三回発行）



全国心身障害児福祉財団
全国難聴児を持つ親の会



RING!RING!
プロジェクト
競輪の補助事業

この指導誌「べる」は競輪の補助金により作成しました。
<http://ringring-keirin.jp>



被災者支援のための「ふれあいキャンプ」報告

全国難聴児を持つ親の会



JKA 補助事業として「被災地支援 ふれあいキャンプ」を9月22日(日)～23日(祝)東京で開催しました。今年で第3回目を迎え、11家族、筑波技術大学の学生さんをはじめとするボランティアの方々、スタッフなど総勢53名の参加となりました。

集合場所も、一昨年の上野動物園、昨年の国立科学博物館という上野地区から、品川区しながわ水族館に変更しました。当日は朝から30度に迫る快晴の中での開催でした。

その様な猛暑の中、元気な家族連れ、ボランティアの皆さんで集合場所の大森海岸駅改札口もごった返しの状況でしたので、案内担当のスタッフを残して、早々に水族館に移動しました。水族館前で各グループ(赤・青・黄)

の点呼・顔合せ、そして、開会式をおこないました。水族館内も1階は海面フロアで東京湾に注ぐ川や東京湾の様子、地下1階は海底フロアでトンネル水槽やふれあい水槽などたくさん楽しめました。楽しいショーも毎日開催しているようで、午前には「ダイバーと魚たちのふれあい・水中ショー」「アシカショー」を見学し、午後にはショー開催の時間の関係で帰る間際まで「イルカショー」を見学するなど、外の猛暑を感じない快適な時間を過ごしました。水上のショーの見学はたくさんの方で、席を確保するのも大変でした。しかし、地下の水中からアシカやイルカのショーを行うアシカ・イルカの動きを見るのも格別でした。今度、機会がありましたらためしてみ

ください。

快適な水族館から猛暑の中、今夜の宿泊場所である国立オリンピック記念青少年総合センターへの移動です。京浜急行線・大森海岸駅から山手線・品川駅経由新宿駅まで、さらに小田急線で参宮橋駅までの移動です。幼児を含む50数名の老若男女の移動です。それぞれのポイントで集合しての移動ですが、ボランティア・スタッフの方々は大変です。もちろん、参加しているお父さん、お母さんも大変ですが、参加している子どもたちには貴重な経験だと思います。

結構、子どもたちはボランティアのお兄さん、お姉さんと仲良くなり、和気あいあいと交流を深めておりました。子どもたちの適応性にはいつもながら感服します。いろいろなことを経験させることは大切ですね。

国立オリンピック記念青少年総合センターでの手続きも事前にスタッフが先乗りして手続きを進めておりましたので、スムーズに入所し、各部屋でのベットメイキングもスムーズに行なうことが出来ました。17時からの夕食は和食・洋食・中華の3メニューから選べ、ご飯・みそ汁・スープはおかわり自由。サラダ・デザート・飲み物もバイキングでおかわり自由です。子どもたちはお友だちやボランティアのお兄さん・お姉さんたちとおしゃべりしながら食事をするグループ、家族とするグループなどそれぞれが楽しみながら食事をしました。夕食後は次の行事まで自由時間のため、部屋ごとの交流を行ったり、お風呂に入ったグループも居たようでした。

19時からセンター棟に移動して、子どもたちはお楽しみ会です。ボランティアのお兄さん・お姉さんのリードで「はないちもんめ」などを行い、思いっ切り楽しみました。

お父さん・お母さんは体験発表をしながら情報交換です。お父さん2名、お母さん9名、スタッフなど総勢18名で行いました。自己



紹介をしながら子どもの様子など発表してもらいました。質問や情報交換は現在の子どもの状況から社会への適用・結婚など多岐にわたり、それぞれが中身の濃い内容でした。瞬く間に時間が経過していきましたが、子どもたちも頑張りすぎて眠くなる子が続出したとの連絡が入り、お開きにしました。

2日目の朝は6時30分に中庭広場に集合して、全員でラジオ体操を行いました。ラジオ体操の後は、7時からの朝食のため、朝食会場への移動です。朝食はバイキングです。それぞれグループごとや家族ごとに楽しんで行っておりました。朝食後は各部屋に戻り、お世話になった部屋の清掃、シーツを外しての整理整頓を行いました。スタッフにシーツを渡し、点検を受けて完了です。

閉会式は中庭広場で行い、参加者全員と各グループごとの記念撮影を行いました。お別れ会終了後、ボランティアのお兄さん・お姉さん・それぞれの家族との名残を惜しみながら、散会しました。

参加して頂きました家族の皆さん、お手伝い頂きました筑波技術大学の学生さんをはじめとするボランティアの皆さん、事前視察など準備段階から奮闘して頂きましたスタッフの皆さんに感謝申し上げます。

来年は場所を変え、宮城県で行う予定です。被災地支援として全国に呼びかけますのでご参加・ご協力をお願いします。

◇会長：高屋敷 光男

*** 参加者の感想 ***

◇すいぞくかんに、いきました。はじめに、あざらしを見ました。エレベーターにのったらあざらしが見えました。すごくびっくりしました。そのあとに、いるかショーを見ました。いるかがぼうのうえをジャンプしていました。すごくかっこよかったです。

それでみんなでおひるごはんを食べました。みんなでたべたごはんは、おいしかったです。そのあとオリンピックセンターにとまりにいきました。よるのおたのしみかいもたのしかったです。

かいちょうさん、どうもありがとうございます。またこんどもいきたいです。ともだちもいっぱいできたので、とてもうれしかったです。

[宮城県仙台市：たかざわ ひろい]

◇水族館へ行きました。お友達のひろとくんたちといっしょに、でかいカメ、エイ、アシカ、イルカ、クラゲなどさまざまな種類の魚をさつえいしたり、観察したりしました。

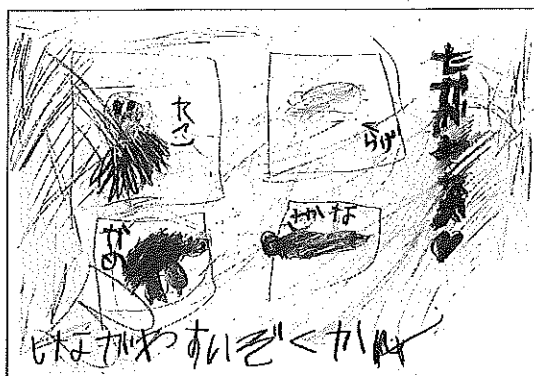
最初にアシカショーを見ました。そして、アシカのたくさんのすばらしい、芸を見ました。

ぼくがアシカの芸で一番びっくりした事は、アシカがジャンプして、水面から1.5mぐらいの高さまでとどいて、ボールをついたところです。

次は、水中トンネルや、めずらしい魚などがある所をまわりました。

ぼくが一番いいなと思った魚は、カメです。理由は、今までに見た、水族館のカメより、でかいと感じたからです。

ボラさんとは、いっしょにおもしろい魚を見たり、めずらしい魚の事をお話しました。



次に、お昼ごはんを食べました。お母さんに、チーズドッグとからあげと、フライドポテトを買ってもらいました。

そして、こうた君やしょうた君の近くで食べました。

そのあとイルカショーを見ました。イルカショーでは、わをジャンプしてくぐりぬけたり、水面から1.5mぐらいの高い横ぼうをジャンプして、飛びこえたのを見ました。とてもすごかったです。

そのあとオリンピックセンターへ行きました。

へやに行って、かいと君たちといっしょのグループでした。

よる19時ごろにお楽しみ会をしました。はないちもんめをやりました。そして、ぼくは、相手にけっこうねらわれていましたが、ぼくは、ぜったいに負けないと心にちかったら、ぜんぶじゃんけん勝ちました。でもはないちもんめでは、ぜんぶ負けました。でも楽しかったです。

お楽しみ会がおわって、へやへ行きました。

入浴時間になり、ひろと君と入りました。そしたら、こうた君や、しょうた君もいました。いっしょにお話しし、泳ぎもしました。おもしろかったです。

ねる時間になって寝ました。

次の日起きたら、ラジオ体操をしました。ねむかったけどおにごっこをして、目がさめました。

閉会式をして、わかれました。

楽しい2日間でした。

[宮城県仙台市：高沢 照也]

お風呂はとても気持ち良かったです。そのあと、氷の入ったココアを飲みました。

歯磨きをして、ねました。

朝ごはんはバイキングでした。そのあと、みんなと別れて、電車に乗りました。

とても楽しかったです。

[埼玉県深谷市：山田 絢佳]

◇私は、ふれあいキャンプにいった一番楽しかったことは、しながわ水族館で、きれいなお魚達を見てきました。ペンギンランドでは、美涼が喜んでいました。トンネル水槽では、大きなエイがいました。ウミガメも大きかったです。

お昼ご飯は、ラーメンを食べました。鳩がたくさんいました。

電車に乗って、参宮橋駅で、おりました。

国立オリンピック記念青少年総合センターまで歩いて行きました。宿泊棟C棟に着いて、部屋に行き、友達とゲームをしました。夕ご飯は洋食を選びました。ご飯をおかわりしたとき、ふりかけをかけて、食べました。デザートブルーベリーゼリーは、宝石のようにキラキラしてて、きれいだったです。

ご飯のあと、はないちもんめをしました。

◇ふれあいキャンプでは、水族館に行くのが楽しみでした。私は、ペンギンが大好きなので、ペンギンを見るのが楽しみでした。動きがちよこちょこしてて、とてもかわいかったです。他に、エイ、ジンベイザメなどを見て、そのあと、ろう学園の友達におみやげを買いました。

オリンピックセンターでは、大学生のれいさんと手話でお話が出来てうれしかったです。

[埼玉県深谷市：山田 美涼]

◇ぼくは電車が大好きで、しながわ水族館や、オリンピックセンターに行くまでにたくさんのいろんな電車に乗れてうれしかったです。駅ではいろんな電車を見られて、普段見られない電車を見ることが出来た良かったです。



2日目は、上野の東照宮でお参りをして
帰りました。2日間、楽しかったです。

[埼玉県深谷市：山田 直人]

マンションかホテルみたくてビックリしま
した。また、来年行きたいです。

[埼玉県深谷市：柴崎 拓海]

◇ぼくは、初めてふれあいキャンプに行きま
した。1泊2日だったけど楽しかったです。

1番楽しかったのは、しながわ水族館か
んです。理由は、トンネス水槽がすごか
ったからです。

2番目に楽しかったのは、1日目のお楽
しみ会です。理由は、はないちもんめが楽
しかったからです。

また、来年行きたいです。

[埼玉県深谷市：柴崎 海翔]

◇9月22、23日のふれあいキャンプは、と
ても楽しかったです。

理由は2つあります。

1つ目はお泊まりです。岩手のレナちゃ
ん前に会ったことはあってもおしゃべり
する機会はほとんどありませんでした。お
姉さんたちと一緒に、いっぱいおしゃべり
できたことが楽しかったです。

2つ目はレナちゃんたちとスカイツリー
に行ったことです。初めてのスカイツリー
だったのでこうふんしました。写真をと
ったり、おみやげを買ったり、レナちゃん
とおそろいのプレスレットを買いました。

とっても楽しい2日間でした。またふれ
あいキャンプに参加したいです。

[岩手県花巻市：小学6年生 阿部 夏歩]

◇僕は初めてふれあいキャンプに行きました。

1泊2日だったけど楽しかったです。

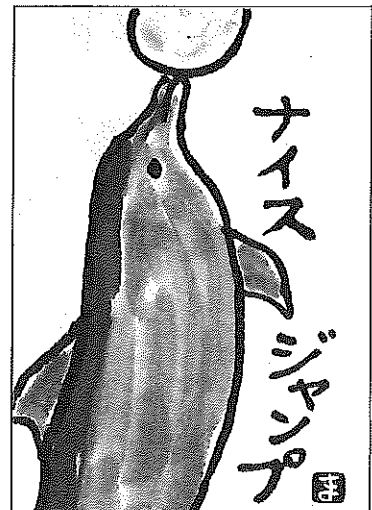
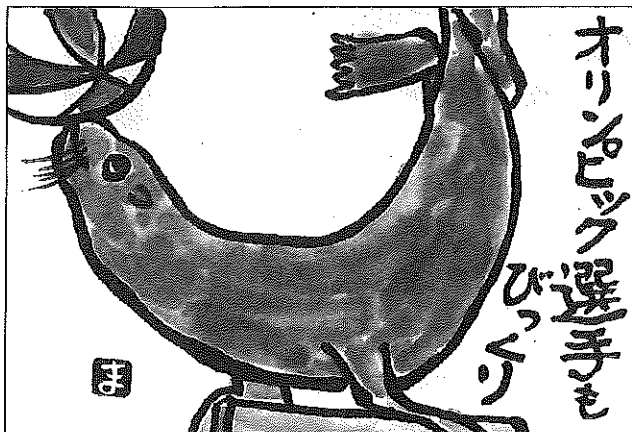
1番楽しかったのは、しながわ水族館で
す。理由はB1にあるトンネス水槽です。
僕は初めて見ました。

2番目に楽しかったのは1日目の夜の子
供たちのゲームです。理由は、はないちも
んめです。久しぶりに踊り楽しかったです。

ふれあいキャンプの泊まる場所はなんか

◇ふれあいキャンプではお世話になりました。

私は、残念ながら初日しか参加できませ
んでしたが、1日だけでも参加できて良かっ



たです。いつも不思議に思うのは、みなさん初めて会う方ばかりなのに、初めてあった気がしないことです。埼玉の親の会主催の夏期合宿に初めて参加したときもそうでした。やはり、共通点があるからでしょうか。夜の体験談には参加できなかったので、移動中や部屋でのわずかな時間の雑談の中でも共感することがあり、貴重な出会いが出来たことに感謝しています。夜の体験談に参加できなかったことがホントに悔やまれます。震災でたいへんなこともあったと思いますが、それを感じさせない笑顔とパワーに元気をいただきました。また、ボランティアの学生さん、生き生きとした笑顔で、何年か後我が子もみなさんのように輝いていてほしいと思いました。来年このような企画があるならば、また参加させていただけたらうれしいです。スタッフのみなさん、ありがとうございました。

[埼玉県深谷市：山田 千秋]

◇今回ふれあいキャンプに難聴の息子2人と初めて参加させていただきありがとうございました。

他県から参加のご家族の方との出会いは、わたしにたくさんの刺激をあたえてくださり、楽しい時間を過ごすことができました。

宿泊施設では、親子別の部屋で息子たちは初めて会った人の中、少しとまどっていましたが、すぐに仲良くなり楽しんでいました。

夜のお楽しみ会では、ボランティアのお兄さんお姉さんと「はないちもんめ」をやった事を楽しそうに話してくれました。

わたしは、全国の役員のみなさん、お母さんお父さんとの交流会でいろいろな地域の活動や情報を知ることが出来て、わたしもがんばろうとパワーをいただくことができました。

1泊2日、楽しくてアッという間に終わってしまった短いふれあいでしたが、事前から準備をしてくださった役員、事務局のみなさま、ボランティアのみなさんのおかげで貴重な体験をすることができましたこと、ありがとうございます。またこのような機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいと思います。

[埼玉県深谷市：柴崎 仁美]



◇私は9月22、23日のふれあいキャンプに参加しました。私は岩手県のキャンプには参加したことがありますが、全国は初めてだったのでドキドキしながら、そしてどんな人達に会えるだろうとワクワクしながら会場に向かいました。電車に乗り換えしながらしながわ水族館に着きました。そこで岩手のお友達がいたのには、お互いにビックリしましたが安心もしました。

娘は水族館でお友達と交流を深め、電車では騒ぎ、お楽しみ会では体力をつかたはずなのに、夜遅くまで起きてメモを取りながらおしゃべりをしていました。お話しするのがとても楽しかったようです。小学校では、どうしても何度も聞きかえしてしまうので、一方的に言われて終わり…ということを何度か見かけました。直していききたいことですが、どうしても聞きかえしてしまうので理解力が足りないのでは？と心配しています。

大人の交流会では、それぞれ思っていること悩みなどを話し合いました。その中で私はすごく恵まれていると思いました。聞こえの教室等先生方のおかげでスムーズにでき子供は小・中と通っています。人に恵まれたことは大変うれしいことです。ほか

の方々に自分が少しでも力になってあげることがあれば協力していきたくて思いました。

2日目はスカイツリーに、お友達と行きました。また、それも楽しい思い出となりました。今回ふれあいキャンプに参加して、とても楽しく身になりました。また機会があったら是非参加したいと思いました。

この企画やスタッフの方々に感謝いたしております。本当にありがとうございます。

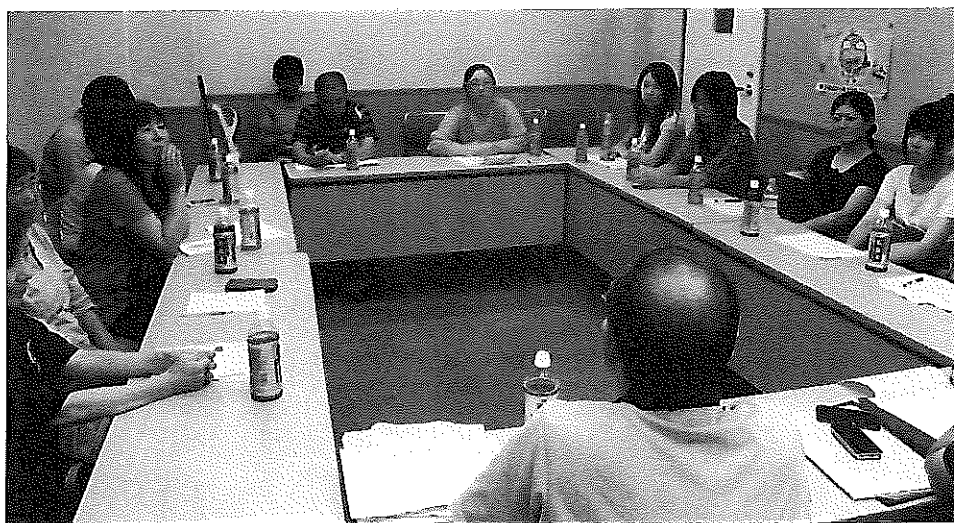
[岩手県花巻市：阿部 悦子]

◇私は、今回、スタッフとして初めて参加した。子供たちと一緒に夜のお楽しみ会をしたり鬼ごっこしたり出来、体力的にはきつかったが、とても楽しかった。

また、子供の頃、参加した地元の親の会主催のキャンプと似ており懐かしく思った反面、当時のキャンプでお世話になった大学生スタッフさんはこんな気持ちだったのかなあと色々勉強にもなった。

また機会があれば、このような楽しいキャンプのお手伝いに行きたいと思う。1泊2日間本当に有難うございました。

[スタッフ：筑波技術大学2年 鹿森 優香]



◇日頃、聴こえない子ども達と遊ぶという機会が少ないため、今回のキャンプはとても楽しむことができました。普段は補聴器をあまり使用せず、手話でのコミュニケーションが中心です。そのため、始めは手話が使えない子どもに対してどう接したらよいかわからず、混乱しましたが、わからないと正直にいうとジェスチャーなどで一生懸命伝えようとしてくれました。同じ聴覚障害を持っていてもコミュニケーション方法は様々であることに改めて気づかされ、伝えようとする気持ちが大切だと思いました。

また今回のキャンプを通して、小さい頃から大阪の親の会でお世話になっていたことを思い出しました。あの頃は何も考えずにボランティアのお姉さんお兄さん達と遊んでいましたが、今思えばロールモデルが身近にいて、自然と手本にしていたのだなと思います。

来年も機会があれば全国難聴児を持つ親の会、または地元の親の会のキャンプに積極的に参加して恩返しをしていきたいなと思いました。

[スタッフ：筑波技術大学 福島 愛未]

◇昨年もふれあいキャンプに参加しましたが、昨年よりもっと楽しめました。昨年は急用により1日目の夕方に帰りましたが、今回のふれあいキャンプでは2日間参加する事ができ、よかったです。

学生だけでレクリエーションをすることになり、いくつか遊びを考えてみた結果子どもさんや学生同士が名前を覚えられるようにということで、はないちもんめを選びました。実際にレクリエーションを進行してやっていくなかで、どうしても小さい子までも見きれなかったことが残念です。また来年学生がレクリエーションを企画する

ならこの反省点もふまえて考えていきたいなと思います。

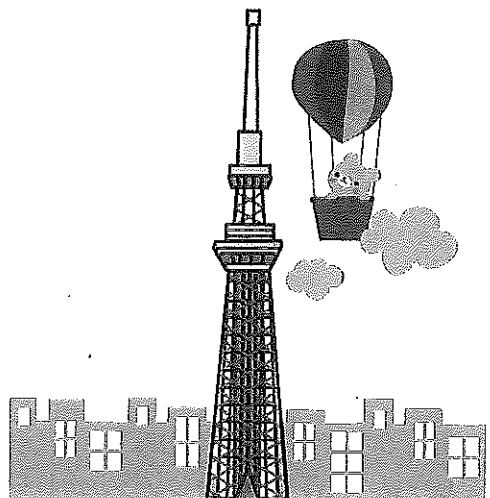
今回参加してみて、水族館や宿泊場所までの移動、お風呂やごはんや寝るまで、子どもさんたちと一緒に過ごしてみても可愛くとても楽しく過ごせました。ボランティアということで募集を受けましたが、思い返せばボランティアと言うよりも私自身とても楽しく遊びました。

またお母さん方すごいな、と思う事ばかりでした。お母さん方の話に少し参加させていただきましたが、難聴・ろうの子供を育てていく中での思いからおもしろい手話表現についてなど様々な事をお話できてとても良い経験になりました。お母さん方の話を聞く中で私の両親もずっと考え悩み私を育ててくれたんだな、と親の有り難みを再確認しました。

親の会でのお母さん方の話し合いなどがあれば一度参加してみたいなと思いました。また何か集まる事があれば連絡を頂けると嬉しいです。

2日間ともありがとうございました。また、来年も参加できることを期待しています。

[スタッフ：筑波技術大学2年 渡辺 彩乃]



◇幼いころ名古屋で言語訓練を受けて以来、一度に多くの難聴の方と出会うことは今回が初めてでした。その上手話が使えないので、うまくコミュニケーションがとれるかどうかがとても不安でした。キャンプ当日は、筆談や口形、ジェスチャーで何とかコミュニケーションをとることができました。参加した子どもはとても元気いっぱい、体力の面も含めて大変だと感じた場面もありました。ボランティアの学生さんともすぐなじみ、健聴や難聴の境なくやり取りできたので、楽しいキャンプになりました。年齢を忘れて童心にかえてしまい、お手伝いできたかどうか分かりませんが、参加して良かったと思えた二日間でした。

[スタッフ：田中 淳]

◇親子ふれあいキャンプが1週間早かったら、台風18号で中止になっていたかも知れません。当日は天候にも恵まれ、先ずはホッとしました。

集合場所には、元気な子供たちが顔を見せてくれました。前日から上京して3連休を楽しんでいる家族、早朝に出かけてきた家族、参加を楽しみにして来たと聞いて、迎える私たちも嬉しくなりました。

こじんまりした「しながわ水族館」ですが、子供たちの目が輝き、アザラシ・イルカの愛嬌あるしぐさや演技に満面の笑顔がありました。次の会場の手配などで先発し、子供たちやご家族の方とお話する時間があまりなかったのが心残りでした。夜、子供たちはボランティアさんたちとお楽しみ会場へ、大人たちは別会場に集まって自己紹介を兼ねた近況報告、体験談や毎日の生活での悩みなどを本音で話し合い、情報交換を行いました。私自身も無我夢中で取り組んでいた頃を懐かしく思い出し、子供を思う親の気持ちが、ひしひしと伝わって

きました。

翌日、解散前の別れの挨拶は、参加者全員との握手が恒例となっています。「帰りたくない!」としゃがんでしょんぼりしている子供の姿には、胸が痛みました。楽しい思い出がいっぱいできたかな?水族館のショーの時は、もっと配慮することがあったのでは?など色々と反省点がありますが、楽しいひと時を共有できたことに感謝しています。

[事務局：田中 真由美]

◇今年も、たくさんの方々に参加していただきました。50数人もの電車移動は大変です。電車の乗り降りをするたびにスタッフは人数確認です。ですから時間もかかります。

事故のないように、迷子が出ないようにと注意しながら、「あっ 会長がいないよ」と心配そうな声を上げたのはK君でした。電車好きなM君も周りの様子を注意深く見ていてくれました。毎年参加してくれる子の成長ぶり、兄弟仲よく下の子を気遣うお兄ちゃんの姿もほほえましく思いました。

また、昨年から筑波技術大学の学生スタッフをお願いしていますが、今年は企画段階から「お楽しみ会」を準備して盛り上げてくれました。子どもたちも大喜びでした。

大震災から2年半がたち、このキャンプも3回目を迎えました。被災地ではキャンプ場が被災していてキャンプができないからということで東京を会場に開催しました。東京までは長い道のりですが、家族で新幹線に乗ってくるその移動も楽しいようです。「また参加したい」という声を聞けば、準備で忙しかった苦労も忘れて、また来年の計画を練っているこのごろです。

災害は、いつどこで起きるかしれません。聞こえない子どもたちが災害時はどのよう

に行動すればいいのか。どんな支援が必要なのか。体験談など聞きながら、その時に備えたいと思います。来年は参加対象を全国に広げ、宮城県で開催する予定です。多くの方の参加をお待ちしています。

[事務局：川上 みどり]

◇暑すぎた夏も終わり、朝夕には秋らしい気配も感じるようになってきた9月、ふれあいキャンプに参加しました。最初の目的地は品川水族館です。テレビドラマのデートシーンに登場する水族館はどんなところかと被災者支援を建前？！に楽しみにしていました。しかしそこは、人・人・人…魚の数より人の数の方が多いのではないかとと思うほどの混雑。(これは、田舎者だからこそ感想か???) それでも優雅に泳ぐ魚たちを介して、初対面の参加者の皆さんと楽しい時間を過ごせました。

夜は、保護者企画の裏で、子どもたちと

「はないちもんめ」で大はしゃぎ。お手伝いに来てくれた筑波技術大学の学生さんたちの手作りの名札を付けて「♪勝って嬉しいはないちもんめ～」と足を振り上げながら、もう大人になってしまったわが子の幼少時を懐かしく思い出しました。

同障のお兄ちゃんお姉ちゃんにまどわりつく笑顔の子どもたちにとって、この一緒に過ごした時間は、自分たちのちょっと先にある未来を確かめ楽しむものにしてくれたのではないのでしょうか？

同室の若いお母さんと子どもたちと行動をともにしながら、ちょっぴりおばあちゃん気分の私は、このキャンプが明日からの日常を元気なものにしてくれるといいなと思いました。事務局の皆さんお疲れ様でした。参加者の皆さん、またお会いしましょう。ありがとうございました。

[中部ブロック長 名古屋会長：堀田明美]





しながわ水族館前に集合して開
会式 高屋敷会長の挨拶と右は
それを伝える手話通訳者



開会式と自己紹介を終えていよ
いよ水族館に向かいます



入館前に大きな荷物はロッカー
に入れました



水族館を出て集合 みんながそろそろのを待っています



新宿駅 電車移動は大変です 乗り換えのたびに迷子はいないかグループごとに人数確認



宿泊する国立オリンピック記念青少年総合センターに向かう小田急線車内 電車の中でも楽しく話が弾みます



お楽しみ会「花いちもんめ」のやり方を子どもたちに説明する学生スタッフ 学生スタッフも筑波技術大学の難聴学生です



「花いちもんめ」を楽しむ子どもたち 大きな声で♪～あの子が欲しい♪～あの子じゃわからんと大いに盛り上がりました



親は別室で意見交換会 日頃の悩み事など相談しました



お楽しみ会で子どもたちはすっかり仲良しになりました 今日はおれでおしまいです



翌朝は元気に起きてラジオ体操をしました



閉会式の前に集合写真

社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団プレゼンテーション

<p>父母団体名</p>	<p>全国病弱虚弱教育学校PTA連合会</p>
<p>団体概要</p>	<p>全国にある病弱校、分校、学級等の単位PTAを基本に構成している。現在、全国で88校の学校があります。下部組織として近畿・東海・北陸地区、関東甲信越地区と地区における連合会も出来て、先生方の研究会の中に分科会を設けて活動をしている。保護者は子どもの入退院が多く、PTAの会員も入れ替わりが多い。そのため、全国的な組織は病弱校に勤務した教員がOBとして支援している。近年は特別支援が学校の改革で肢体不自由特別支援校、知的特別支援校との併置も進んでおり、PTAも多様化している。</p>

<p>補助事業名</p>	<p>障害児の親のための指導誌(紙)の発行事業</p>
<p>平成24年度補助事業 実施内容</p>	<p>本会の全国的な活動の様子を把握、整理して指導誌(会報)として報告している。年間をとおして6月に東京で開催している全国大会を皮切りに夏の地区のPTA連合会の保護者の発表、情報交換、補助事業の概要などを全国に報告している。また、指導誌をとおして保護者が役立つ情報も記載している。本会のHPでも簡単な活動概要を伝えている。PTAは学校の教員との連携が不可欠で、学校を通じて配布している。教員もほとんどの学校がPTA会員となっているが指導誌は保護者を中心に配布し、教員には管理職、各学部毎に配布して見てもらっている。</p>
<p>実施した結果 成果・効果について</p>	<p>指導誌(会報)は保護者を基本に関係団体に配布しており、本会の活動の様子を知ってもらう、絶好の機会となっている。特にこの指導誌がJKAの補助を受けて出来ていることが周知されているところである。このことは全国大会、地区大会等で報告して、PRも行っている。保護者の体験や活動の様子を全国的に知る機会になり、各学校のPTAの活動計画に役立っている。現段階で、PTA(保護者)にしっかり、行き渡っている方法はこの紙面による指導誌である。今日、ICT化が進んでいる時代だが、各個人に確実に伝わるのはまだ紙媒体であるのが現状である。</p>
<p>次年度以降への改善点</p>	<p>今後の課題は年一回の指導誌発行、配布であるが、年間をとおして、活動や情報を流す手段を検討して行きたい。指導誌発行を第一にICTを活用した本会の様子を発信していきたい。そのためには会員の中で、ICTに造詣の深い会員の発掘も課題である。同時に支援しているOBのICTのスキルアップも課題である。弱小団体のため、各単位PTAが全国規模で連携して情報を共有する体制を強化することも課題である。</p>

全国病弱虚弱教育学校PTA連合会(全病P連)

全病P連の組織

全国にある病弱校、分校、学級等の単位PTAを基本に構成しています。

事務所は

所在地 東京都豊島区南大塚3-43-11
全国心身障害者福祉財団ビル7階
〒162-0051 TEL/FAX03-3984-1313
E-mail zenbyou_pren@yahoo.co.jp

会長 遠山俊二(元仁戸名特別支援学校PTA会長)
事務局長 坂田紀行(元全国病弱養護学校長会長)
事務局次長 射場正男(前全国特別支援学校病弱教育校長会長)
事務局次長 安達眞一(前全国特別支援学校病弱教育校長会副会長)

沿革

昭和45年埼玉県立寄居養護学校PTA会長滝沢茂氏を会長として当会を立ち上げるとともに事務局体制を組織し、活動を開始した。運営に当たっては、他障害別とは異なり、病弱校の特殊事情から昭和49年度から退職校長が会長職を代行し、全面的に支援してきている。今年度で43年目を迎えている。毎年会報を発行しており、それを紐解くと歴史が分かります。

本会の副会長、理事、監事について 全病長会長校のPTA会長、全病連理事長校のPTA会長→副会長に。各地区病連連責任校のPTA会長に毎年、理事をお願いしています。北海道地区(八雲養護学校PTA会長)、東北地区(西多賀支援学校PTA会長)、関東甲信越(柏崎特別支援学校PTA会長)、近畿・東海・北陸(天竜特別支援学校PTA会長)、中国・四国(鴨島支援学校PTA会長)、九州(門司特別支援学校PTA会長)、ほか監事として関東地区の学校の校長、PTA会長をお願いしたいと思います。

大会開催

毎年東京で開催されている、全特長大会での全病長大会に合わせ当会の理事会・大会を開催し保護者と校長先生の出席(代理)で活動報告や情報交換及び係る課題等について協議を重ねている。校長先生方の御理解と御協力を得て大会運営を進めている状況です。

活動

- ・会費と国庫補助、JKA(自転車振興会=競輪)の補助を受けて「保護者研修会」「集団キャンプ」「社会適応講座」「障害児・者父母団体地域指導者養成研修会(地域競輪事業研修会)」に参加しています。
- ・会報を年一回発行しています。
- ・国への要望を他の障害種別PTAと一緒にしています。
- ・全国推進連盟の振興大会に参加し、意見を伝えています。
- ・各地区で開催される地区病連大会に参加。(昨年は関病連、中四病連、近病連)
- ・全国を持ち回りで開催される全病連大会に参加しています。(昨年正式に10名加盟)

今年度の動き

- ・全病連大会(富山大会)でPTA分科会が開催され、会員として参加します。
- ・地区病P連の立ち上げに協力していきます。(現在2地区が立ち上がっている)。
- ・JKAの補助事業は継続します。
- ・事務局が移転しました。JR山手線大塚駅近くです。
- ・本会のHP(ホームページ)で最新情報を発信していきます。